

物は、覚せい剤と違って、長年使用しても、幻覚妄想状態（精神病状態）を作り出すことはないという薬理特性があるからでもある。

しかし、この療法は、薬物依存症の本質から言えば、焼酎・日本酒に依存した人に対して、「ビールで我慢せよ」と言っているのと同じであり、薬物依存症そのものが改善するわけではない。

幸い、わが国でのヘロイン依存者は、極めて少ないため（表2）この療法は事実上行われていない。

一方、覚せい剤には代替療法が存在しない。代替薬物の使用自体が、幻覚妄想状態（精神病状態）を作り出すからである。

結局、筆者は、わが国のIDUsにおけるHIV/HCV感染の感染拡大を防ぐための対策は、1. 違法薬物使用の生涯経験率の低さを維持することであり、2. 同時に、IDUsに対する薬物依存症からの回復システムを整備することだろうと考えている。しかし、わが国の薬物依存からの回復システムは、世界の最貧国状態にある⁹⁾。

6. おわりに

わが国のIDUsにおけるHIV感染の有病率は、非常に低い。HCV感染の有病率は、他国との比較では低い、有病率自体は高いと言わざるを得ない。これらは、わが国の薬物乱用状況の特異性から切り離して考えることはできない。

薬物乱用は火事にたとえることができる。炎が大きくなってしまうと、誰にも止められない。HIV/HCV感染も、これに近い性質を持っている。炎が大きくなってしまうと、Harm Reduction政策の導入以外、対応策はない。そのような事態にならないためにも、違法薬物使用の生涯経験率の低さを維持しながら、IDUsに対する薬物依存からの回復システムを整備することが急務である。

本稿で紹介したわが国での「IDUsにおけるHIV/HCV

感染関連データ」および「違法薬物の生涯経験率」は下記の厚生労働科学研究と、同研究代表者らによるそれ以前の厚生労働科学研究による。

- ・エイズ対策研究事業「内外のHIV感染症の流行動向及びリスク関連情報の戦略的収集と統合的分析に関する研究（H21-エイズ-一般-011）」（研究代表者：木原正博）
- ・医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業「薬物乱用・依存の実態把握と再乱用防止のための社会資源等の現状と課題に関する研究（H21-医薬-一般-028）」（研究代表者：和田 清）

文 献

- 1) Mathers BM, Degenhardt LD, Phillips B et al. : Global epidemiology of injecting drug use and HIV among people who inject drugs: a systematic review. *The Lancet* 372 : 1733-1745, 2008.
- 2) Wada K, Greberman SB, Konuma K et al. : HIV and HCV infection among drug users in Japan. *Addiction* 94 : 1063-1071, 1999.
- 3) 和田清, 石橋正彦, 中村亮介ほか：薬物乱用・依存者におけるHIV感染と行動モニタリングに関する研究。厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）「内外のHIV感染症の流行動向及びリスク関連情報の戦略的収集と統合的分析に関する研究（研究代表者：木原正博）。平成21年度総括・分担研究報告書。pp. 184-201, 2010.
- 4) Wada K : The history and current state of drug abuse in Japan. *Ann. N. Y. Sci.* 1216 : 62-72, 2011.
- 5) Huber C : Needle Park : What can learn from the Zurich experience? *Addiction* 89 : 513-516, 1994.
- 6) 和田清, 尾崎茂, 近藤あゆみ：薬物乱用・依存の今日的状況と政策的課題。日本アルコール・薬物医学会誌 43 (2) : 120-131, 2008.

日本エイズ学会誌

第13巻 第1号/2011年2月

[目次]

■総説

薬物依存と HIV/HCV 感染—現状と対策—

和田清, 小堀栄子..... 1

薬物乱用問題の概観

小島賢一..... 8

HIV と肺がん

味澤篤..... 13

■原著

<臨床>

HIV 感染患者におけるニューモシスチス肺炎に対する ST 合剤の投与量別

副作用発現頻度と脱漢感作療法の検討

矢倉裕輝, 吉野宗弘, 乗原健, 矢嶋敬史郎, 谷口智宏, 富成伸次郎,
渡邊大, 上平朝子, 白阪琢磨..... 20

当院における HIV 母子感染予防対策を逸脱した症例の問題点と今後の課題

中西美紗緒, 田沼順子, 本田美和子, 五味淵秀人, 菊池嘉, 岡慎一,
箕浦茂樹..... 26

■研究ノート

<社会>

エイズ拠点病院外来通院中の HIV 感染者および AIDS 患者への

ソーシャルサポートの検討

金澤悦子, 正田美鈴, 武藤愛, 佐藤功, 伊藤俊広, 佐藤愛子, 土屋香代子..... 33

■コメント

コメント 「エイズ関連非ホジキンリンパ腫治療の手引き

Ver1.0 における Rituximab の使用について」への返信

味澤篤, 永井宏和, 小田原隆, 照井康仁, 上平朝子, 四本美保子,
萩原将太郎, 岡田誠治..... 40

2010 年度第 2 回日本エイズ学会理事会議事録..... 42

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業
「国内外の HIV 感染症の流行動向及びリスク関連情報の
戦略的収集と統合的分析に関する研究」
平成 21～23 年度総合研究報告書

2012 年 3 月 31 日 発行

代表者 木 原 正 博

連絡先 京都大学大学院医学研究科
社会健康医学系専攻社会疫学分野
〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町
TEL 075-753-4350 FAX 075-753-4359

©2012

印刷 トーブラ

本報告書に掲載された論文及び調査票には著作権が発生しておりますので利用にあたりご留意下さい。

